

好きなものは
好きだから
しよつがなひです
お兄ちゃん!

成人
Adult Only
向け



好きなものは
好きだから
しよつがないです
お兄ちゃん!

まうがき

こんにちは、赤さたなんです。
今回は「いもいも」の本と相成りました。
アニメ1話の冒頭のシスプリコラボでくっと掴まれ、
話もテンポよくて面白いな〜と。

涼花ちゃん可愛いですね！ お兄ちゃん大好きな妹…
でも素直になれず、お兄ちゃんへの愛を創作物にぶつける妹…
よい…よいですね…。
祐くんもいい子ですよ〜
というか精神的にタフネス…あんな二重生活は耐えられない…！！
こんなタフボーイ祐くんなら、妹の大きすぎる愛を
受け止めてくれると確信いたしました。

文字がいっぱいで読みづらかったらすみません。

涼花の部屋で
とんでもないものを
見てしまった

涼花が…オナニーしてる…!?
見間違いか?
いやあれはどう見ても…
ノックしたのに
気づかないくらい
夢中みたいだ

はっ

はっ

「んっ♡んっ♡
んん…んん♡」

「はあ…っ♡
んんっ…んんんっ♡」

声を押し殺して
オナニーする妹…
枕で擦っても
気持ちいいもんなのかな…
って、身内のこんなこと
見たらどうしたらいいんだ!?

み、見なかったフリが
正解だよな。うん



涼花に見つかって
しまった

「お兄ちゃん
見ましたか？」

「いや
ナニモミテナイ……」

「その変な態度は
見たからですよね!?
わ……私のこと
軽蔑してますよね……
こんな妹で……」

「いや女の子だって
オナニ……くらいするさ!
そう!ただ涼花はそういうこと
興味あるとは思わなくて
びっくりしたけど……
俺だつてするしな!」

「お兄ちゃんのも
見せてください!」
「私だけ見られたなんて
不公平です……っ」

いやそれは
おかしい……よな?
でも涼花は
完璧優等生だからな
ダメな兄に
負い目があるのは
耐えられないんだな……

きゅむっ

きゅむっ

「わかった俺のオナニーも見せるでもそれ見たらお互いにこのことは忘れるいいな」

「はっ…早くはじめてください」

「いや涼花すぐそんな気分にならないって部屋行ってエロ本とってくる」

「涼花俺の部屋に入ったのか？」

「なになにやにを言ってるんですか！

知りません！
年頃の男性の一般論です
お兄ちゃんはエッチな本は金輪際捨ててください！」

「じゃあ何をネタにするればいいんだよ？
そういうえは涼花はさつき何を妄想してたんだ？」

「わ、わたしはお兄ちゃん…じゃない！
いつか素敵な男性とですね、
結ばれることを想像して…
って何を言わせるんですか！

何もなくてもオナニーくらいできます！
もちろん匂いのついた洗濯物とかあるとベストですが！
ってああもう違います…
そうじゃなくて…」

「エロ本っ…!?
まえから思っていましたけど
ああいういかがわしい本は
お兄ちゃんには
まだ早いと思いますが」

俺も作家を目指す人間だ
このよくわからない状況で
妄想でオナニーしてやる！
ちよっと待ってろ涼花…！

なんかエロいこと
エロいこと…
さっきの涼花ちよっと
いやすごくエロかったな

おろろ

『はあ…はあ…
お兄ちゃん…お兄ちゃん
涼花の…大事なところ…
次はお兄ちゃんのペニで
擦ってもいい…？』

抱き枕で自分の…
大事なお兄ちゃん…
普段からああいふ風に
オナニーしてんのかな
妹のオナニーをネタに
最低だけど、今思い付くのは
これくらいだし
しようがないし、しようがない…

『…膨らんでる…
お兄ちゃんのペニで
つつん……ついたら
きつと涼花…
すぐイっちゃう…❤』

「はあ…はあ…
涼花あ！」

お…

お…

「これでおあいこだろ？
はあはあ…」

「気のせいでなければ
あの、私の名前…
叫んでましたけど
もしかして私のこと
妄想してましたか…？」

「え、あ、いや！
そんなことは
ある…けど…
ごめん気持ち悪いよな
でもついさっきみた
涼花のことが…」

「あの、怒ってませんから…
むしろ嬉し…
ごによごによ…」

「その…お兄ちゃん
女の子の大事なところって
見たことありますか？」

「は、はあ!？」

「今私がお兄ちゃんの
お…オチ○チンを
見た経験はエッチなシーンに
いつか生かせると思うんです！
お兄ちゃんも見たことがないなら
女の子の体のこと
知っておいた方がよいんじゃないかと…」

びびり

びびり

びびり



涼花のオナニーを見た時から何かおかしくなってしまったんだ
涼花の言ってることはおかしい
なのに拒むことができないし
妹の体に興味が隠せない……

「お兄ちゃん……見えますか？」

「う、うん
初めて見た……けど
キレイだ、な
もっと近くで触ってみていいか？」

エロ本……は読んだことあるけどモザイクで見えなかったしな
ま○こっつて
こんな風になってるのか……
花びらみたいに綺麗な色だ

「濡れて光ってるけど
これ……愛液ってやつか？」

「は……はい……
その……ヤっキ……
自分でしてた……ので……」

ム
び
ん
ん

「触るとどんどん
出てくるな
ちよっただけ舐めて
みてもいいか？」

Yes
Yes
Yes
ゆる
ゆる

「ひゃんっ
お兄ちゃん……
もう触ってるじゃ
ないですか……♡」

「え!？」

「……はい……あのどうぞ……
お兄ちゃんの気のすむように
してください……♡」

初めて見る妹の恥部
興奮で俺の行為は
エスカレートして
いってしまった

「あっ♡アツ♡
ああーっ♡♡お兄ちゃん♡
もうっ♡♡イってます！
イってる！イってりゅのこー！
ひっ♡ひい…あ♡
おかしくなりゅっ♡♡
おかしくなっちゃいます」

涼花の体がずりずりと
ベッドの上に逃げようと
するのを押さえつけて
がむしやらにおま○こを
舐めまわした
いつも凜とした涼花を
おかしくさせているのは俺だ
その事実にとまらなく
興奮した

涼花のおま○こを
弄くりまわして
どれくらい経っただろうか
涼花は時折大声をあげて体を
震わせていたが今はぐったり
動かなくなっていました

「あ…っ…あ…っ」



「涼花…
いいよな」

「……」

気絶している
涼花からは
当然返事はない

「涼花…ッごめんっ」

ずんずん

ズキ

ずんずん

散々弄ったおかげか
ヌルっと抵抗なく
涼花の中にち○こが入った
思ったよりあっけなくて
拍子抜けした
これがセックス…
ああ俺童貞を卒業したんだ…

「…んっ…んっ♡」

ずんずん

涼花の体を気遣うように
動けたのは最初だけで
中の締め付けや
短く声を上げる涼花に
興奮して我慢ができなくな
ってしまった

ずんずん

ずんずん

ずん

ずんずん

ずんずん

ずんずん

ずんずん

「えっあ♥
お兄ちゃん…?
にや、にやんですか
これえ!?!」

「あまたいつもの夢…ですね
お兄ちゃんと
結ばれたら…って…
エッチな夢ばかり
みてるんです
オナニーも止められなくて…
こんな妹でごめんなさい…」

「涼花 夢じゃない
夢じゃないんだ
涼花が可愛くて
我慢できなかった
本当にダメな兄でごめんな」

「夢じゃないんですか?
ゆ…ゆめじゃにやい!?
嬉しいです…♥
夢のよう…です♥」

「やだっ! お兄ちゃん
あんまり見つめないで
ください…っ
私いまきつと
だらしない顔を
してますから…っ」

は
は
は

は

は
は
は

は
は
は

は
は
は

は
は
は

「これがお兄ちゃんの
精液の味なんですね♡」

「涼花汚いから
舐めなくていいよ」

涼花はちん○だけじゃなく
ケ：ケツの穴まで：

「おにいちゃん…
おにいちゃん…♡」

「お兄ちゃん♡♡♡
お兄ちゃん♡
大好き…大好きです」

ちゅぽ
ちゅぽ

ちゅぽ…
ちゅぽ

ニムニム

ニムニム

ズズズ

ちゅぽ

ちゅぽ

「お兄ちゃんの体で
汚いところなんて
ないでしゅ…っ」

この体験は俺と涼花に
大きな変化を与え、
この後出した新刊で読者に
永遠野誓は一線を越えた…！
そう噂されるのは
また別の話だ

好きなものは
好きだから
しよつがないです
お兄ちゃん！

あとがき

はい！いつも通り細かい字で申し訳ありません。
あとがきでございます。

ド直球な兄妹ラブコメってよいですよ…。
正直、自分が作家を目指して苦戦しているのに、
妹が初めて書いたラノベでデビューしちゃって、
その代理人で替え玉をして…って心を病みそうだなあ…と
思ってアニメ1話を見ていました…胃が痛いよ…。
でもそこを超えて、妹のために尽力して、
自分の夢もきちんとかなえようと努力する祐くんは立派な人だよ…。
というかやっぱり可愛い妹の願いは、
無理難題でもかなえたくなるものでしょう。

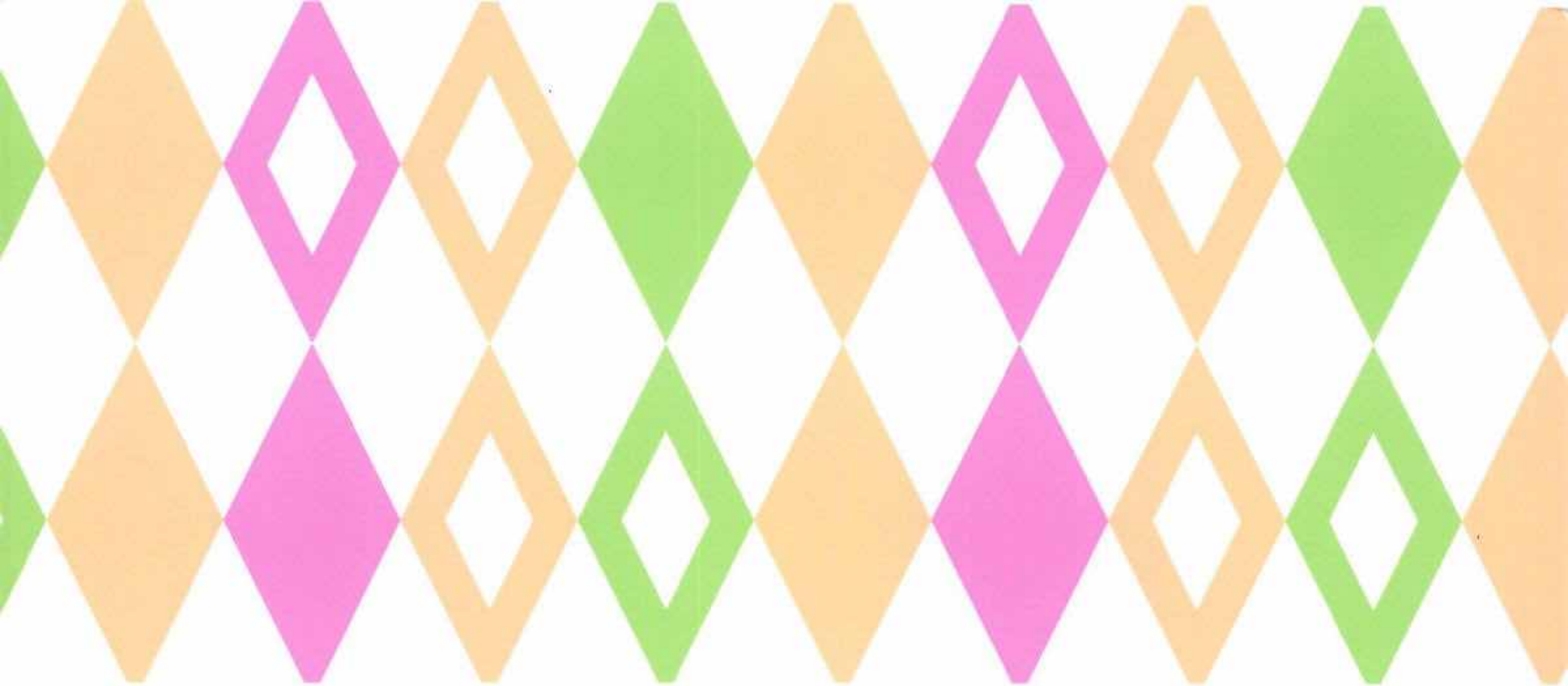
涼花ちゃんの作品は、自分の中の正直に伝えたい気持ちの結晶で、
それをお兄ちゃんにも、世界中の皆にも届けたいという、
その情熱が読む側にも伝わるんだろうな～…
だから面白いんだろうな～…と感慨にふけりつつ。
その熱と、それをかたちにするパワーは憧れますね…！
というわけで自分も欲望のおもむくままに本を描いてみました！
涼花ちゃんが慌てたときに「にゃにゃっ」と
口調がくだけるのが可愛いな～と思ひまして、
「お兄ちゃん、しゅきしゅき」
「だったら俺も妹が好きだ」みたいな
軽いノリで描きたかったものの、途中祐くんのモノローグが
ポエムになっててごめんなさい。
性格上、どうしても説明を入れたくてポエムor実況しちゃうんですよ…。

涼花ちゃんはお兄ちゃん大好きな気持ちは、
素でアナル舐めをしてしまうはず…その一心でこの本を描きました。
少しでも楽しんでいただければ幸いです。
それではでは。

赤さたなん

[サークル名]みみくりどっとぜっと
[発行人]赤さたなん
[発行日]2018/11/04
[連絡先]mimicry.z.2828@gmail.com
[印刷所]株式会社ポプルス様

内容は作品に対する個人的解釈であり、当サークルは作品の関係者様とは
一切関わりはございません。無断転載、複製、ネットへのアップロードは
おやめください。また、18歳未満の方の購読、閲覧を禁じます。18歳未満の方への
譲渡、貸与も禁じます。



好きなのは
好きだから
しよつがないです
お兄ちゃん！

